

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム あけぼの
日付	平成17年3月3日
	特定非営利活動法人
評価機関名	高齢者と痴呆の人のケアを大切に作る会
	LIFE SUPPORT推進グループ
評価調査員	在宅介護経験8年
評価調査員	在宅介護経験11年
評価調査員	在宅介護経験8年
評価調査員	在宅介護経験16年
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

講評
<p>全体を通して(特に良いと思われる点など)</p> <p>人を「人間」として尊敬して、病氣予防・治療・リハビリ・介護予防・痴呆介護を一貫して高齢者ケアをしているグループホームを見ることが出来た。毎朝の理事長や総看護師長がグループホームの利用者一人ひとりを訪ね、声掛けや話し相手になり精神的なケアをして、不安を取り除く。そして今度は、利用者と職員全員が揃ってリハビリ場に行き、約1時間で身体的機能の衰退予防、元気な時の歌や踊りを思い起こして歌ったり踊ったりして、精神的ケアを施すという1日の生活のリズムのピークをつくっている。「出来る限り、自分の足で歩こう」とする姿勢が伺える。</p> <p>職員がすべて手助けするというのではなく、利用者の出来ることは利用者同志でも助け合うという光景が見えた。車椅子を手押しするのは杖がないと歩けない人が、車椅子を杖代わりに押している。歩ける人は色々な物を持って一緒に歩くという具合で、実にほほえましい。これが自立の道につながっていくのだろう。</p> <p>一人ひとりが自分の得意な事を一生懸命する。生活上の手伝い、自分の能力を高める訓練、例えば字を書く、手芸をする等、年輩いた自分自身を更に磨いている。</p> <p>人さまざまの生活で、一人ひとりの能力や思いやりを大切にしている日常生活でもある。</p>
<p>特に改善の余地があると思われる点</p> <p>次のような提案をした</p> <p>家族への働きかけを今以上に計画し、実行してみたらどうでしょう。</p> <p>2階建てとなっており、2階部分には庭がないので花や野菜等を育てることに接しられないため、グループホーム全体で楽しめる菜園を考えたらどうでしょうか。</p> <p>家族や地域の人がホームをもっと訪れて利用者に接するような方法を考え、ケアに生かしたり、地域に痴呆を理解して貰えるようにして欲しい。</p> <p>理事長を筆頭に各職員一致団結して痴呆ケアに努力しているのは尊敬に値するが、更なるレベルアップを図る為、そして理事長に代わって出来る人材育成もしておかないと先行き大丈夫かなあと、いらぬおせっかいをしてみた。</p>

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>「可能な限り自立した暮らしをしていただく」という大きな目標を管理者・職員とバックアップしている医療体制が、太い絆で結ばれた形を持ち続けており、職員と利用者との間にも馴染みの人間関係が作られている。利用者が家庭に居た時と同じように、安心して落ち着いた気持ちで生活出来るような支援を目指しており、又外出などを積極的にすることで楽しく充実した生活が出来、介護度も低くなっていく利用者が多い。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所周辺等の防犯策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>各部屋は造りが違い、和室と洋室がある。各々にこだわりを持って造られていて、調度品も持ち込んで自分の部屋という雰囲気になっている。出窓には人形や花鉢を飾り、中には仏壇を置いたりして、心を和ませてくれている。</p> <p>個室にはトイレと洗面台のある小部屋があり、プライバシーへの配慮は十分で、排泄機能の維持、改善にも役立っている。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>「可能な限り自立した暮らしをして頂く」という大きな目標をかかげ、理事長(代表)・管理者・職員が一体となって、「歩け、歩け」と全体でするリハビリ体操で、心身共に元気をつける。又、個人的には一人ひとりの能力や経験を良く理解して、色々な角度からその人に合ったケアをして、不安のない生活を送って貰う。</p> <p>このグループホームのケアは、親切に何でも手助けしようとするのではない。一人ひとりでは出来ないことでも、「皆んなで助け合ったら自分の力になる」「自分でも出来るようになる」という自信が持てるということの発見だろうと思う。毎日、毎日、無気力で過すのではなく、向上の為に気力を持たそうという支援が大変尊いと感じた。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。</p> <p>医療・福祉・介護が一連化して、「利用者を一人の人間として大切にあげよう」とする目標に向けて理事長(代表)がリーダーシップをとり、利用者をケアできる体制は整い、「高齢者の生活の質を大切にしよう」という理想的なグループホームが築かれたと思う。</p> <p>これからは「家族はお客様」ではなく「大切な父や母、夫や妻」が安心して暮らせるグループホームを育成するためのパートナーと考えて、家族が運営の一部に参加する体制が実現出来ないものだろうか。地域のひととの交流により、ボランティアがグループホームの力添えに期待できないだろうか。これによって、医療-福祉-介護-家族-地域の連帯により地域単位での高齢者ケアが出来るサービスが実現すると思う。</p>		